

今週のメニュー

■トピックス

◇株式会社ダイカンの堺新サーマルリサイクルプラントのご紹介

株式会社ダイカン 営業部 営業企画 新田 恭之

■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その8） —東京農業大学収穫祭「大根踊り」—

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇株式会社ダイカンの堺新サーマルリサイクルプラントのご紹介

株式会社ダイカン 営業部 営業企画 新田 恭之

当社堺工場の焼却プラントの老朽化に伴い、新しく焼却能力240トン/日、最大発電能力3,300kW（発電効率9.4%）、実質熱回収率15%の新サーマルリサイクルプラントに生まれ変わりました。5月20日に竣工いたしましたのでここに紹介させていただきます。

○ 新プラント建設の経緯

当社の歴史は、創業者の吉村武雄が、昭和49年に大阪環境処理センターとして大型焼却炉を大阪市鶴見区に設立したことに始まります。以来、40年にわたって焼却をメインに事業を行って参りました。

焼却炉については、2基目を平成元年に堺事業所、3基目を平成11年に本社工場に建設し、本年、4基目の焼却炉が堺事業所にオープンしました。

「我々は産業廃棄物の処理会社であると同時に良質な燃え殻の製造業者である」と創業者、吉村武雄が常に申しておりました。そこには、単に産業廃棄物を燃やせばいいのではなく、焼却した後のことまで考慮して処理しなければならないという考えがあったのだと思います。この考え方は今でも当社の基本となっており、昭和49年の大型焼却工場を建ててから今まで、一貫して産業廃棄物の焼却処理にこだわり続けて、その技術の蓄積に努めて参りました。



新プラント全景（堺工場）

○ 新プラントの特徴

ここ堺新プラントの1日あたりの焼却能力は240トンで、旧プラントから48トン能力アップしています。事業所の敷地面積は13,000m²、新炉建物延床面積は2,800m²、新炉建物の建築面積は1,893m²で、煙突を除いた新炉建物の高さは34m、炉形式は往復動式ストーカー炉です。



可燃物ピット

新炉建設にあたっては、今後の産業廃棄物の変化や多様性を見据えて、大幅に能力をアップした施設となっています。主な特徴は、①これまで焼却に不向きとされてきたようなカロリーの低い産業廃棄物（汚泥・ガラス等）でも焼却が可能であること、②塩素分・硫黄分等の高い産業廃棄物の処理が中間天井による特殊滞留で従来より容易であること、③余熱発電を行い余剰電力は関西電力に売電できること、④実質熱回収率が15%あり廃棄物処理法上の【熱回収施設認定】取得見込みであるため、排出事業者が行政報告等で熱回収業者への委託を記載できること、の4点があります。

○ 今後のビジョン

産業廃棄物の性状は一昔前と比べるとガラリと変わっています。単一物性の物がリサイクルされ焼却に委託されるものは特殊な成分が含まれている・複合物が増加するといった焼却委託物の変化は、これからも続くでしょう。今後は、焼却炉そのものの技術向上も必要ですが、焼却炉をオペレートする技術・前処理の技術といった、産業廃棄物処理業者しかできない廃棄物の変化に合わせた下ごしらえのような技術開発が不可欠です。今回オープンした堺新プラントを核として、産業廃棄物処理業者ならではの技術の蓄積に努めて事業を展開していきます。（連絡先：06-6913-8666）

■ 随想

◇日本のお祭りシリーズ（その8） ー東京農業大学収穫祭「大根踊り」ー 関東学院大学 織 朱實

暑い夏が続いたかと思ったら、一足飛びに真冬のような寒さがやってきて、秋らしい風情を楽しむこともなかったのが11月に入って穏やかなお天気が続き、ようやく色づいたもみじを鑑賞する雰囲気になってきました。厳しい夏の影響で、木々が夏バテしてしまい、今年の紅葉は今一つらしいのですが、それでも例年通り10月末から11月末にかけて、全国順繰りに紅葉が見ごろになるのは縦に長い日本の嬉しい風物詩ですね。写真は、11月5日の北海道の中之島公園。都会の真ん中とは思えない自然と見事な紅葉。そして、山全体の紅葉にはまだちょっと早い愛知県の香嵐溪。ライトアップは、月とのコラボが見事でした！



北海道、中之島公園の紅葉



愛知県、香嵐溪の紅葉とライトアップ

9月10月は、秋祭りのシーズンですが、残念ながら「今度のメルマガの記事にしよう」と勇んでカメラ担いで行った埼玉県川越市の「川越祭り」は雨と寒さにたたられました。勇壮な山車が見ものだったのですが、雨に濡れないように山車の上の人形はしまわれ、山車自体もビニールでぐるぐる



ビニールシートにくるまれた山車の引き回しとおきつね様のきめポーズ

巻き。それでも、各町内会の粋なお兄さん、お姉さんは雨もいとわず、元気に神輿をかついでいましたが、写真的には今一つ、ということで今回は、日本の秋のお祭り、といえは「学園祭」！世田谷区の東京農業大学の「収穫祭」に行ってきました。

収穫祭は、東京農大の学生が収穫した農作物、花、発酵食品などを無料で配布したり、格安で売りに出すということで地元のお母さんからも絶大な支持を得ている学園祭です。特に、有名なのは応援団による「大根踊り」。大根を持ちながらの勇壮な応援歌は、毎年大勢の観客がかけつけるという一大名物です。今年も、ホールには応援団 OG や関係者も含め 2000 人を超える観客で熱気がむんむんしているなか、勇ましい応援団の演武、チアリーダの演技、吹奏楽部の演奏が拍手喝采！大盛況でした。



もちろんなによりも盛り上がったのは、自前の大根を手にしながらの応援歌『青山ほとり』。ユーモラスな動きが大うけでした。

私が、凄い、と思ったのは並み居る男性応援団幹部の中に紅一点、女性幹部が迫力ある演武を披露してくれたこと。応援団という硬派な男社会の中で、女性が幹部まで勤め上げるのは並大抵ではないはず。男社会の中で、頑張る女性の姿に、思い入れたっぷりに応援してしまいました。男性を従えの演武、カッコいいですよ。



最近の学園祭は、商業化している中で全部自前自作の作物というのが、さすが農業大学！頼もしいです。地方の高校の文化祭も、最近では随分雰囲気が変わってきて、地産地消という観点から地元の企業と高校が組んで、文化祭で販売する製品の企画（お米を使ったパンケーキから塩ソーダ、はては自動車の販売まで！）から販売、決算までを学生がやるというスタイルが増えてきていて、びっくりです。昔のように文科系のクラブが調べものをして発表する、同人誌を販売する

というスタイルから随分変わってきているようです。私が、訪問した富山県の高校では文化祭の2日間で1300万円の売り上げがあったとのこと。高校生にとっても、社会人とのお付き合いが貴重な経験になっているようです。

内容は、時代とともに変わってきていますが、秋の金木犀が香る夕暮れ、遅くまで友達と看板を作ったり、楽器の練習をしたり、模擬店の準備をしたり、わいわいおしゃべりしながら大変な思いをするのが学生時代の楽しい経験というのは、どの年代にとっても共通な思い出。大学の学園祭が、プロのコンサートのような商業っぽさが目立っていて、おじさんおばさんが郷愁にひたるにはちょっと遠かったのが、ここ数年は手作り、環境、食糧自給率そうしたコンセプトを取り入れた学園祭スタイルに回帰しているようで、はるか昔の学生にとってはまた親しみやすい秋の風景が戻ってきてくれたみたいで、嬉しいものです。



穏やかな秋の日がいつまで続いてくれるか、これから冬に入ったらまた冬祭りを探してみたいと思います。

全国いろいろな紅葉の写真も、ブログでもアップしているので是非大きな写真で見てください。

⇒ [ブログはこちらです。](#)

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

寒さも増し、鍋の季節になってきました。小さな菜園を借りていますが、9月に植えた白菜の苗が大きく育ち重宝しています。先日収穫してきた白菜に小さなカタツムリが付いていました。庭に放しても、食べるものがなく飢え死にするのではないかと思い、しばらく、葉っぱのかけらの上で台所に居候してもらっています。今度、菜園に行ったときに開放してやろうと思っています。がんばれ！カタツムリ。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp